

「部門別の取り組み」に係る委員意見一覧

※資料1「部門別の課題と対応一覧（案）」の修正に係っているご意見については、「No.」欄の数字の下に、「*」印を付しています。

No.	部門	委員によるご意見	
1 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(徳久委員) 「防災」に関してはインフラの維持管理面が非常に大きいと思う。実際、橋梁などはかなり老朽化していると思うが、老朽インフラの維持管理等はどの部門に入るのか。区分の適切性は担当部署の判断に任せるが、一般的には「防災」のところにいくイメージがある。 【ご意見に対する回答】(事務局) 行政運営の「市有財産管理」に記載している。市有建築物の耐震改修は一定完了しており、災害対策のための改修というよりは、耐用年数に伴い改修していくという考え方である。しかし、インフラの維持管理については、「防災」の部門においても重要な項目であるため、記載について検討する。	第3回 1部会
2 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(徳久委員) 備蓄品などに関する事業者との連携や、幼稚園や保育施設の提供を受けて乳幼児を抱えている方のための避難所を設置するなど、さまざまな試みがある。今回の計画に関して、みんなで連携してやっていくということであれば、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の内容が薄いと思うので、もう少し記載した方がよい。	第3回 1部会
3 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(岡田委員) 現在、枚方市では防災協力農地について、枚方市では現在指定をしていないが、寝屋川市など近隣市では何らかの特典を付けて指定している。都市農業を守る一つの取り組みということで「農業」の部門に記載されていると思うが、本来は農業ではなく防災としての取り組みのほうなので、掲載する部門を検討してほしい。	第3回 1部会
4 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(三輪敦子委員) 災害弱者への配慮はぜひ計画の中に入れてほしい。基本計画に「具体的な事業例」を記載しないと、一般的なことしか記載していない項目も出てくる。やはり、枚方らしさを出していくためには、「行政の主な取り組み」のところに「災害弱者への配慮の徹底」などを記載してほしい。	第3回 1部会
5 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(角野委員) 災害時においては、最終的に市民一人ひとりのスキルが重要になると思うので、市民の防災力の向上について、もう少し方向性を出した方がよいのではないか。	第3回 2部会
6 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(後閑副部長) 「防災」部門の取り組みには、環境整備等に関する「ハード」の視点と、市民意識等に関する「ソフト」の視点、また、それを結びつける「システム」といったような視点が混在しているように思うので、それらを整理することで、役割分担も明確になるのではないかと。	第3回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
7 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(吉川部会長) 「防災」部門の取り組みの分類の仕方としては、「ハード」・「ソフト」等の視点のほか、「自助」・「共助」・「公助」の視点、「平常時」・「災害発生時」等の時間軸の視点などがあると思う。全体を目配りした上で、整理する必要がある。	第3回 2部会
8 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」「子育て」	(富岡委員) 各部門の記載方法で、ストーリーがわかるように整理できればよいと思う。例えば、「防災」部門では、現状を認識した上で、計画をつくり、それに基づいて平常時の訓練を実施し、いざ災害が起こったら対応に取り組むという流れがある。また、「子育て」部門では、出産前、出産直後、就学前の子育て期、学校教育というように、流れが見えてくれば、わかりやすくなると思う。これは、計画の本書ではなくても、概要版やパンフレットなどで示すのもよいと思う。	追加 意見
9 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(富岡委員) 日本の若者世代は人に迷惑をかけないということに関しては意識が高いが、人を助けたりするといったようなボランティア精神については少し劣っている。このため、その部分を育てていくための働きかけなどの視点も重要になると思う。	第3回 2部会
10 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(橋本委員) 防災力を向上していくには、情報を共有することが重要になると思う。個人情報保護の観点など壁となる部分もあるが、情報共有の視点を記載してもよいと思う。	第3回 2部会
11 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」の欄に、「災害時における非常通信体制の強化」とあるが、近年、情報インフラの整備が進み、スマートフォンやタブレットなど様々なツールがあるので、そうした視点を記載してもよいのではないか。	第3回 2部会
12 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(高井委員) 災害時の緊急情報発信については、携帯電話の基地局が被害を受けることもあるので、防災行政無線の有効活用は欠かせないと思う。	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
13	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(嶋田委員) 「部門別の取り組み進捗状況一覧」にある施策指標のうち、ハード整備の指標は目標値を達成しているものの、「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については順調に推移しておらず、市民へ働きかけて行動を起こしてもらうことには壁があるように思う。これを促すものとして、地域防災推進員の育成があると思うのだが、今後のことを考えると若年層の育成が大切になってくると思う。この地域防災推進員はどのような年齢構成になっており、どのように選定されているのか教えてほしい。年齢に応じた防災意識の違いなどを踏まえて、市民への働きかけにつなげていけばよいのではないかと。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本市では全45小学校区で自主防災組織が結成されており、そうした活動を支援できる人材として、平成22年度から地域防災推進員の育成に取り組んでいる(平成26年度末時点の総数：約460人)。選定については、継続的かつ効果的な人材育成を行う観点から、主に校区コミュニティ協議会等に対し人選をお願いしている。また、より幅広く人材育成を行う観点から、平成24年度から広報誌等での募集も行っている。年齢構成については、平成25年度の申し込み時から年齢確認を行っており、推進員全体の正確な構成は把握できていないが、平成25年度以降の推進員の約80%は50歳以上(約65%は60歳以上)となっている状況である。</p>	第3回 2部会
14	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(高井委員) 災害時に大きな力になるのは若年層であり、特に中学生は日中も主に市内で活動している世代であることから、災害対策に協力してもらうことは有効であると思う。</p>	追加意見
15 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(三輪信哉委員) 枚方市では、全小学校区に自主防災組織が整い、地域防災の中心となる人材を育てるとともに、学校施設などを拠点に充実した防災訓練を行っていると感じている。市民が防災意識を高め、より防災訓練に参加してもらうには、参加することでの楽しみなどの仕掛けづくりを検討する必要があると思う。</p>	追加意見
16 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(小原委員) 地域防災推進員については、人数を増やしていくことも大事だが、現在の推進員が引き続き取り組みを充実できるようフォローしていくことも大切である。</p>	追加意見
17 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(小原委員) 自主防災訓練は、同じ訓練だけでは飽きてくる。また、校区単位だけでなく、より細分化し、自治会単位で行うことも必要だと思う。</p>	追加意見

No.	部門	委員によるご意見	
18 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「災害医療・保健」	(三輪信哉委員) 「取り組みの方向」に「災害発生時から中長期にわたる医療・保健活動を展開する」とあるが、これはどういうイメージか。 (新川部会長) 東日本大震災の例で言えば、少なくとも避難所での生活が2年から3年に及び、この間に心身ともに健康を損なうというケースがたくさんあった。心のケアも含めた保健衛生活動が、この間、非常に重要な役割を果たしている。 【ご意見に対する回答】(事務局) 中長期的なスパンで精神的なことも対応していく必要があるということで記載しているが、もう少しわかりやすい表現になるよう検討する。	第3回 1部会
19 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「災害医療・保健」	(高井委員) 災害が起こった後、食料や物資の調達・提供も大切だが、避難所で中長期間、生活していくためには、避難者のこころのケアが重要である。	追加 意見
20 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「生活安全」	(谷本委員) 個人情報の適正管理は、「生活安全」の部門ではなく、行政運営のところで書くことのように感じるが、ここに記載するのであれば、市民に個人情報の保護を促すような記載が必要になると思う。	第3回 2部会
21	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「道路環境」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の中に、「道路の異常箇所を発見したら速やかに通報」という記載があるが、それに対する行政の対応が明記されていない。どこまで記載するかは議論の余地があると思うが、市民ニーズの高い部門でもあるので、具体的な事業例に記載すべきだと思う。	第3回 2部会
22	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「道路環境」	(谷本委員) 阪神高速道路は現在、守口までとなっているが、それを枚方まで延伸してもらいたいということをここでは明記できないのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 高速道路の延伸については、国の計画に基づき進められているものであり、現在では、新名神高速道路の早期完成について働きかけを行っているところである。	第3回 2部会
23 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載が薄いので、公共交通機関の利用を促すような内容を検討してもよいのではないかと。	第3回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
24 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	(後閑副部長) 公共交通機関の利用促進に向けては、バスの本数が少なかったり、路線がなかったりする地域があるが、本数や路線を増やせば、事業者の経営は厳しくなるだろう。このようなことも積極的な利用についての課題になると思う。 (吉川部会長) バス路線の拡充などの課題がある一方で、国が進める今後のまちづくりの方向性として、駅周辺などの地域に公共交通を含めた都市機能を集約していくという視点もある。	第3回 2部会
25 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	(加藤副部長) 周辺にお住まいの市民が商業施設や病院等にアクセスするための「100円バス」の話があったと思う。これは、「安全で、利便性の高いまち」を実現するための一つの手段になると思うが、どこの部門に記載されているのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 「課題」欄で「鉄道など利便性の高い交通環境を備えているが、さらなる公共交通の利便性の向上が重要」という課題設定はしているが、その対応として、行政の主な取り組みの具体的な事業例に「100円バス」は記載できていない。	第3回 1部会
26 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「住環境」	(富岡委員) 「住環境」という言葉は、道路や公共交通も含むすごく広い意味合いが感じられるが、内容を見ると「宅地環境」ぐらいの中身だと思う。今後、各部門を示す表現を考えていく際に、検討すべき事項だと思う。	追加 意見
27 *	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「住環境」	(吉川部会長) 人口減少が進み、市民が市内に拡散して住むということになった場合、サービスが行き届かないという状況が生まれてくる。そこで国では、できるだけまちの中心に人を移動させ、病院や学校のほか、市の施設なども中心部に配置することでまちのコンパクト化・効率化を図ってはどうかということをご提案している。 周辺部に人が住むということになれば、道路整備や公共交通の確保など、コストが大きくなる。行政運営のことなどを考えれば、都市のコンパクト化が有効だと言えるだろう。都市のコンパクト化の先進地域としては、中心部にLRTを整備するなどして一定の効果を見せている富山市がある。 (後閑副部長) コンパクト化にあたっては、どこをその中心とするかが問題となってくる。今後、コンパクト化に向けて開発を進めていくのであれば、長期的な構想を持たなければいけないと思う。	第4回 2部会
28 *	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「高齢者福祉」	(岡田委員) 市民農園の記載がないが、例えば、認知症ケアによいということもあるので、「健康」とか「高齢者福祉」の部門に記載してもよいのではないかと。 (新川部会長) 市民農園となると、多少「具体的な事業例」になってしまうかもしれないが、こういったことも想定した福祉とか、健康づくりがあってもいいのかもしれない。	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
29 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「高齢者福祉」	<p>(三輪信哉委員)</p> <p>例えば、「健康」では、病気になった場合の対策が列記されていて、受け皿を用意しているということはわかるが、「健康」の中には、みんなが生き生きと輝きながら毎日を過ごすことを支援するという仕組みも入れていくべきで、それは「スポーツ」だけではないと思う。</p> <p>また、「高齢者福祉」も同様で、認知症や要介護になった場合の記述が多いが、高齢者が健やかに生き生きと暮らせる社会をいかにつくっていくかという視点が欠落している。行政として、セーフティーネットを張り巡らしていくことは今後厳しくなるので、セーフティーネットを使わなくて済む仕組みに労力を割くべきではないか。</p> <p>予防医療の取り組みが充実すれば、医療費など税金の節約にもなる。実際、イギリスでは、食生活などを見直し、医療機関とも協力していくことで、随分と成果を挙げたという話もある。</p>	第3回 1部会
30 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」	<p>(徳久委員)</p> <p>最近、小学校で風邪予防の体操をやっていたり、高齢者が健康いきいき体操をやっていたりする地域は多い。厚労省も予防医療ということを積極的に推進しているが、この計画にはそうした視点が欠落している。「健康」のところでも予防医療に関する項目を立てておいた方がいいのではないかと。行政としても保健師が指導にあたっていたり、民間でも任意団体等がそうした指導や促進に向けた活動を行っていたりする場合もある。予防医療を促進しながら、もしリスクを負った場合にはセーフティーネットが用意されているという前向きな書き方に変えてはどうか。</p>	第3回 1部会
31 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「健康危機管理」「公衆衛生」「スポーツ」	<p>(橋本委員)</p> <p>部門の分け方について、こころの病気と薬物は今後ますます重要度が増してくると思うので、互いに連動するところもあり、それらを独立させて、「健康教育」などとするのもよいのではないかと。また、「健康危機管理」を「公衆衛生」と一緒にしたり、「スポーツ」を「健康」の中で取り込むなど、部門の分け方の精査が必要だと思う。</p>	第3回 2部会
32	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」	<p>(伊東委員)</p> <p>健(検)診の受診については、講座の後に健(検)診を行うなどすれば、市民が行きやすくなるのではないかと。</p>	第3回 2部会
33 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康危機管理」	<p>(三輪信哉委員)</p> <p>エボラ出血熱のような非常に危険な感染症が増えていく中で、「取り組みの方向」には新型インフルエンザの記載しかない。このままの内容で十分なのか、少し危惧する。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局)</p> <p>さまざまな新たな感染症が世界中で発症しているため、記載内容について検討する。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
34*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「医療」	(角野委員) 若い世代に安心して住んでもらうためには、周産期医療の充実が必要だと思うが、現況として、北河内は周産期医療が弱い地域だと思うが、枚方には関西医科大学附属枚方病院などがあるので、40万都市としてこの点を打ち出していく必要があるように思う。	第3回 2部会
35*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「医療」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」について、市民にできることとして、病院ボランティアがあるのではないかと。地域の医療機関におけるソフト面の取り組みとして、病院ボランティアの育成や充実といったことがあると思う。	第3回 2部会
36*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「高齢者福祉」	(宮原委員) 認知症は高齢者だけでなく若年の方もいる。今の内容では高齢者のみを対象としており、認知症をひとくくりにした場合、どこか窮屈な気がする。	第3回 1部会
37*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「高齢者福祉」	(橋本委員) 「取り組みの方向」に、「世代間交流の場の確保」があるが、その視点の明記が薄いように思うので、例えば、「学校教育」の道徳の部分であるとか、全体的な視点で記載の検討が必要だと思う。	第3回 2部会
38*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「障害者福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、主体として、「福祉サービス事業者」や「事業者」といった表記があるが、これらの違いを整理をしておく必要があると思う。	第3回 2部会
39*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「障害者福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、事業者の障害者に対する合理的配慮があるが、事業活動だけでなく、就労の視点も重要であるため、「就労及び事業活動」などとしてはどうか。	第3回 2部会
40*	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(宮原委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」に「民生委員は、住民の見守りや相談事により生活困窮者を発見し、福祉事務所に連絡」とあるが、連絡するだけでいいというわけではないと思う。 また、民生委員の役割が、強制的に決めつけられているような文言になっているのが気になる。もっと簡潔に、「民生委員との連携を図る」といったような表現にいただいた方がよい。これは全部門でも言えることだと思う。	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
41 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(北川委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「民生委員」の取り組みがあるが、主体が少し限定的に感じる。	追加意見
42 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、「民生委員」や「ボランティア団体」が主体として挙げられているが、生活福祉の問題は多岐にわたり、民生委員等の負担は大きく、抱え込みも出てくる。民生委員等に対する研修やフォローを行政で行ったり、職能団体等が支援していくといったような受け皿が必要だと思う。	第3回 2部会
43 *	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「人権」「男女共同」	(三輪敦子委員) 「取り組みの方向」や「行政の主な取り組み」がこれだけではわかりにくい ため、もう少し具体的に記載してほしい。例えば、配偶者暴力相談支援センターがあること自体は先進的なことだと思うが、そのワンストップ化などを「行政の主な取り組み」に記載していくことはできないか。実行計画にしか記載できないのかもしれないが、検討する必要があると思う。 (新川部会長) 「男女共同」についても、「行政の主な取り組み」には本来必要な支援や相談といった取り組みが抜けているのかもしれない。	第3回 1部会
44	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「人権」	(宮原委員) 「具体的な事業例」の「高齢者サポートセンターの運営」は地域包括支援センターのことだと思うが、これはここに記載すべき内容なのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 「高齢者サポートセンター」については、高齢者の権利擁護・虐待防止に関する相談を含めた総合的な相談窓口となっていることから記載している。	第3回 1部会
45 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち)	(谷本委員) 「スポーツ」の部門に関する記述について、基本目標「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」のどこかに盛り込むべきだと思う。「スポーツ」は現時点では、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」に分類されており、健康増進の視点で捉えることのほかに、自己の成長や生活を豊かにするといった側面もあるので、そういった観点からも検討すべきではないか。	第3回 2部会
46 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「産前・出産」「子育て」	(後閑副部会長) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、電車にベビーカーを乗せることに対して批判があったり、バスの中で妊婦に対して座席を譲らなかつたりといったことが起こっており、子どもを社会全体で育てていくという視点が必要だと思う。	第3回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
47 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「産前・出産」	(富岡委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、「積極的な情報収集、知識習得」、「育児手技の獲得」といった表記があるが、主体は誰を想定しているのか。また、書きぶりが他の部門と違うので整理すべきではないか。「子育てサークルへの参加」などといった記載のレベルがふさわしいように思う。 【ご意見に対する回答】(事務局) ここでの主体は、子どもの親を想定しているが、全体的に、主体が不明確な点や、他の部門との書きぶりの統一性について今後、整理させていただく。	第3回 2部会
48 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「産前・出産」	(伊東委員) 「子育て」部門に比べ、「産前・出産」部門の取り組みが薄いと思う。個人病院でも助産院でもいいが、産める場所を増やすことができれば特色になると思う。産後のケアやサポートももちろん重要だが、産前のサポートをもっと充実させてもよいのではないか。産前の支援の充実により、枚方で産もうと思ってくれる人も増えるように思う。	第3回 2部会
49 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「産前・出産」	(伊東委員) 具体的な事業例として、治療費用の助成などしかないので、「子育て」の部門にあるような「支援プログラム」など、もう少し産前の事業についても充実させた方がよいと思う。	第3回 2部会
50 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「産前・出産」	(伊東委員) 児童虐待やニート、DVなど様々な社会問題が起こっているが、起こった後に対応することも必要だが、人が生まれる前の妊娠期や成長していく子育て期からの事前の対策が大切で、良い親子関係を築くことが重要だと思う。特に、産前期において、母親が子育てについて気軽に学べる機会の充実などは必要だと思う。	追加 意見
51	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「行政の主な取り組み」に「ひとり親家庭等の自立支援」とあるが、これはひとり親家庭が経済的に自立していくということなのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) もちろん経済的な面もあるが、家事等の支援も含む広い意味での支援を想定している。	第3回 1部会
52 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「若者無業者(ニート)やひきこもり等の困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実」と「ひとり親家庭等の自立支援」では状況が異なると思うので、ここは切り分けてもよいと思う。	第3回 1部会
53 *	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 枚方市が病児保育に取り組んでいるのであれば、その記述があってしかるべきだと考える。	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
54*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「取り組みの方向」で「子どもの人権擁護の推進を図るため、児童虐待等の問題に対し、発生予防、早期発見、早期対応の取り組みを進めます」とあるが、「行政の主な取り組み」には「児童虐待防止体制の充実」という1行だけしか記載されていない。当事者が制度や体制等を知らないまま最悪の事態に陥るというケースもあるので、支援プログラムの実施など体制の充実以上の書き方が必要だと思う。	第3回 1部会
55*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(角野委員) 「児童虐待」や「ひきこもり」の分野については、「取り組みの方向」の記載が抽象的で、これでは改善につながらないと思う。なかなか外側から見えない問題なので、早期発見、早期対応は相当困難だと言える。周産期からのつながりもあるし、虐待の世代としては中学生なども対象となっているので、学校教育との連携も含めて具体的な取り組みが必要になると思う。	第3回 2部会
56*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 取り組みの方向で、「豊かな人間性を育む」とあるが、基本目標にも「生きていく力」とあり、「生きていく力」や「考える力」も重要だと思うので、文言を入れるなど検討してもよいのではないか。	第3回 2部会
57*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 「行政の主な取り組み」において、「学校給食の充実」が挙げられているが、この部門にも、「食育」の視点を加えてはどうか。「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」に、農業生産者による農産物の安定的な供給の記載があり、「食育」は他の部門にもあると思うが、ここでも記載してもよいと思う。	第3回 2部会
58*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 「課題」の欄などに、「環境づくり」という言葉が多く使われているが、基本目標の表現についても、「生きていく力を育む教育とその環境づくりを進めます」などと追記した方が整合がとれるように思う。	第3回 2部会
59	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 登下校時の事故など子どもが犠牲となる事件・事故などへの対策については、「生活安全」の部門のところで取り扱ってもよいように思う。	第3回 2部会
60*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) 登下校時の事故など子どもが犠牲となる事件・事故への対策に関して、「生活安全」の部門のところで取り扱ってはという議論があったが、学校が必ずしも安全な場所になっていないことが大きな問題になっていることから、安全教育という視点で、この部門で打ち出す方がよいと思う。また、具体的な事業例として、通学路の危険箇所調査や学校監視ボランティア等の記載があるが、端から端までチェックできるわけではなく、子どもたちが自ら身を守るスキルが重要で、その能力を引き出すことが必要だと思う。	第3回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
61*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) 「学校教育」の部門の記載をみると、平成20年ぐらいの内容のように感じる。また、「確かな学力」、「豊かな人間性」はあるが、生きていく力として、「健康体力」に関する記述が抜けている。さらに、これまで枚方市が取り組んできた「英語教育」に触れておらず、2018年度からは小学校でも英語が正式教科になる動きが出てきていることもあり、英語教育の視点を打ち出していくべきだと思う。	第3回 2部会
62*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) いじめ対策について、大阪府や各市では審議会の設置やプログラムの作成などの具体的な対策がとられてきている。課題の中で、「社会全体で子どもたちの生きていく力を育む環境づくり」とあるが、いじめや不登校などの問題のほとんどは、家庭と学校に起因している。また、具体的な事業例で挙げているのは、全て教育委員会が担っているの、「取り組みの方向」において、「学校・家庭・地域・関係機関が連携を図りながら」という表記も違和感がある。学校のことを考慮して住まいを移動する人もいるので、「学力」のほか、広い意味での「安全」を打ち出していくべきだと思う。	第3回 2部会
63	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」 「文化芸術」	(伊東委員) 子どもが自分の身を守ることにに関してだが、市民ワークショップでは、古武術を取り入れてはどうかという意見があった。小さい力で大きな相手に対応できるというところがある。また、中学校でヒップホップダンスを取り入れるところがあるみたいだが、外国の踊りを入れる前に、河内踊りなど住んでいる地域のものを取り入れた方が特色を打ち出せるのではないかと。枚方市は他市に同調している傾向があると聞くので、独自の特色を出していく必要があると思う。	第3回 2部会
64	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「生涯学習」	(加藤副部長) 「図書館サービス推進事業」の指標として「図書館の利用者の割合（年度中に1回以上図書館資料を借りた利用者/人口）」とあるが年々減少している。ネット利用など今は図書館の使い方がかなり変わってきていて、高齢者の方でも、図書館で本を借りるのではなく、自分の研究のサポート、あるいはアドバイスを求める場所として活用している人もいるので、利用方法に応じて図書館の制度も変えていかなくてはならないと思う。 また、それに合わせた指標を設定していく必要があるのではないかと。図書館を何のために使うのか、そこまで踏み込んで考えていくと指標も違ったものになると思う。この話は、図書館に限らず、すべての指標について当てはまる話である。 なお、現在、図書館は指定管理者制度で運営しているのか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 現在は直営で運営している。ただし、分館のような生涯学習施設と一体となっている図書館については、指定管理者制度導入の準備を進めている。	第3回 1部会
65*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「生涯学習」 「文化芸術」 「歴史文化遺産」	(吉川部長) 「子育て」や「学校教育」の部門については多くの項目が挙げられている一方で、「生涯学習」や「文化芸術」、「歴史文化遺産」の部門については記載が薄い。都市の魅力を生むという点から考えると、このあたりがもう少し出てこないといけないと思う。	第3回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
66*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(徳久委員) 日本では、アマチュアの方がサークルをつくって芸術活動をしていることが多い。しかし、ここでは、大きなイベントや市が主催する展覧会等を行っている団体が想定されているように思う。先ほどの生きがいの話にもつながるが、今後、自分たちで日常的に芸術活動をやることで元気になっていくということもあり得ると思うが、そういった観点の記述がない。「芸術文化」と「健康」のどちらに入れるかは検討が必要だが、箱物ありきではなく、ソフト的な文化芸術活動を考えていくべきだろう。「行政の取り組み」としても、大きなイベントばかりに着目するのではなく、アマチュアサークルの発表の場として、生涯学習市民センターを使いやすくするなどの視点から考えてみてもよいのではないか。	第3回 1部会
67*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(新川部会長) 「取り組みの方向」で「文化芸術に対する市民の関心・理解を深める」とあるのに、「行政の主な取り組み」では「市民の文化芸術活動の支援」にとどまっており、行政の支援のあり方に記載が弱い印象がある。 情報化社会においては、生涯学習、文化芸術活動など、利用方法やアクセス方法など一人ひとりのスタイルが変わってきている。そういった大きな潮流を考えながら対応策を考えていかなければ、旧態依然とした計画となってしまう。	第3回 1部会
68*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(嶋田委員) 「高齢者福祉」の部門で、「取り組みの方向」に、「世代間交流の場の確保」とあるが、どのように場をつくっていくのが課題と感じており、昔ながらの今の子どもたちが知らないもの、又は知っているものをツールにして、高齢者世代と共有していくことになると思う。例えば、河内音頭に注目すれば、八尾市が注目されていたり、柏原市では高齢者の健康プログラムに河内音頭を取り入れていると聞いている。しかし、河内音頭は枚方が発祥という説もあるので、強く打ち出せる要素を持っているといえる。地元枚方の文化をツールにして、世代間交流を促進していくことも必要ではないか。	第3回 2部会
69*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」 「歴史文化遺産」	(橋本委員) 「文化芸術」と「歴史文化遺産」の部門はひとくくりにしてもよいのではないか。あまりに部門が細かくなりすぎると、縦割りの印象が強まり、逆に大きな枠組みにしておけば、施策の連携も柔軟に示せるように思う。「基本計画」では大きな枠組みで捉えて部門を再整理し、下位の実行計画などでより細分化していけばよいと思う。	第3回 2部会
70*	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」で、美術館の整備があるが、基本計画の期間を踏まえると、整備した美術館を活用しながら、文化芸術に触れる機会を充実していくことが取り組みになると思う。	追加 意見
71*	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(宮原委員) 「取り組みの方向」で、「人々が集り交流し、～」とあるが、基本目標では「集い」という表現を使っているので、統一した方がよいと思う。	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
72	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(谷本委員) 基本構想の基本目標では、「中心市街地の活性化などにより、人々が集り交流し、様々な活動が活発に展開される拠点づくりを進める」とあり、核となる拠点が枚方市駅周辺以外にも示せたらよいのではないか。	追加意見
73 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(伊東委員) 「行政の主な取り組み」の欄に、「枚方市駅周辺のにぎわいにつながるイベントの開催」とあるが、「広報ひらかた」の紙面を増やすなど、市内のイベント情報の発信を充実すればよいと思う。	第4回 2部会
74	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(谷本委員) 中心市街地については、枚方市駅周辺のほかに、重点的な地域を設けるなどしても良いと思う。 (吉川部会長) 商業的には樟葉駅の方がポテンシャルが高いのかもしれない。もちろん枚方市駅は交野線ともつながっており、交通ネットワーク上、重要な役割を担っているが、枚方市駅周辺だけが中心市街地と決めつけなくても良いと思う。	第4回 2部会
75 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「中心市街地」	(吉川部会長) 今後の人口減少社会を踏まえ、国全体の動きとしてコンパクトシティ化があり、駅周辺などの既存の市街地の地域資源をうまく活用していかなくてはならないと言える。	第4回 2部会
76 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(宮原委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「清掃ボランティア等の活動」とあるが、内容がわかりにくいので、表現を工夫すべきである。	追加意見
77 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」で、「歴史や文化などの観光資源の情報発信の強化」とあるが、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄の記載に比べて具体性がないので、整合を図るべきである。	追加意見
78 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(三輪敦子委員) 枚方市の歴史文化遺産のほか、特に枚方宿地区などを効果的に発信すれば、多くの観光客を呼び込める可能性があるのも、もっとPRしていくべきだと思う。	追加意見

No.	部門	委員によるご意見	
79 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」 「産業」	(橋本委員) 「観光・交流」部門で、「国内外」や「地域内外」という表記、また、「産業」部門で、「事業者」や「事業所」という表記があるが、使い分けについて整理すべきである。	追加意見
80	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(伊東委員) 枚方市内にある京阪電車の駅に菊人形を置くなどしてはどうか。話題になっている人物の菊人形を設置することなどにより、乗降客数の増加につながるように思う。 【ご意見に対する回答】(事務局) 毎年、秋に開催している「ひらかた菊フェスティバル」において、市民菊人形展として約1ヶ月間、枚方市駅構内に菊人形を設置している。(平成26年度テーマ：「馬上の黒田官兵衛」)	第4回 2部会
81	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(後閑副部会長) 進捗状況の資料において、「桜と菊を生かしたフェスティバル来場者数」の指標が平成24・25年度に大きく減少している理由はなにか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 平成24・25年度については、悪天候により開催期間が短縮されたことに伴って、大幅に減少したものである。	第4回 2部会
82	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(後閑副部会長) 進捗状況の資料において、「国際交流ボランティアの登録者数」の指標は目標値とかなり乖離しているが、「国際交流ボランティア」がどのような活動を行っているのか。活動内容がうまく市民に伝わっていないのではないかと。医療通訳ボランティアなどには多くの希望があることから、ボランティア意識の高い人は多いと思うので、具体的に情報を届けることが登録者数の増加につながるように思う。 【ご意見に対する回答】(事務局) 「国際交流ボランティア」は、公益財団法人「枚方市文化国際財団」で登録しているボランティア制度で、通訳・翻訳などを行う語学ボランティアと、国際交流イベントなどを手伝える事業サポートボランティアとがある。活動内容と募集の案内はホームページにより行っている。	第4回 2部会
83 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(谷本委員) 近年、大阪で水辺の活性化が打ち出されている。枚方市も淀川舟運の歴史がある地域であり、既に舟運を推進していこうという動きは聞いているが、今後、観光資源としてより一層打ち出していても良いのではないかと。	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
84 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(吉川部会長) 枚方市は観光都市ではなく、観光施策によって市民や市内事業者を潤わすというより、交通ネットワークの一部として淀川を生かしていくなど、恒常的なまちづくりの中で観光施策を生かしていった方が良いのではないかと。	第4回 2部会
85 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「観光・交流」	(谷本委員) 淀川を生かすのにスポーツの視点も有効だろう。淀川河川敷のマラソン大会などでは市民のみならず、市外からの参加も期待できる。	第4回 2部会
86 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(谷本委員) 地元の大学生が地元企業へ就労し、市内に定着するための取り組みの視点を組み込んでよいと思う。	追加 意見
87 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(谷本委員) 枚方市内には大学が多く、学生も多く住んでいる。学生が市内で就職すれば定住につながるのだから、そういう視点を持った取り組みがあっても良いと思う。	第4回 2部会
88 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(後閑副部会長) 医療系の大学生については枚方市内に働く場が結構あると思うが、その他の分野はどうなのか。「市内工業事業所数」などが減少傾向にある中で、学生が市内に定着したいと思っても、就職したいと思える魅力ある企業を確保できるかどうかは課題となってくるだろう。	第4回 2部会
89 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「就労」	(橋本委員) 「行政の主な取り組み」で、就労相談の支援などだけでは取り組みが薄いように思う。市民ニーズが高い部門でもあるので、就労支援の視点で他に取り組みがあれば記載すべきである。	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
90 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「就労」	<p>(北川委員) 若者への就労支援とあわせて、高齢者への就労支援が必要ではないか。今後、退職後も働かなければ食べていけないという人も出てくるのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 国のハローワークで対応する部分もあるので、市がどこまで対応できるかを検討する。</p> <p>(新川部会長) 就労は若者と高齢者の大きな共通課題であるので、若者の就労先や離職、再雇用や職業訓練の問題も含めて、市でも検討してほしい。</p>	第4回 1部会
91	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「就労」	<p>(三輪信哉委員) 就労について、今後、機械化、IT化の進展などでますます厳しい状況になる。今後、知能を集積させた仕事かそうでないか二極分化し、貧富の差が拡大すると思う。そういったところにコミュニティビジネスも入ってくると思うが、予め考えておかなければいけない課題である。</p>	第4回 1部会
92 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「就労」	<p>(三輪敦子委員) 高齢者の就労支援は重要である。高齢者の健康増進によって幸福度が増すことと同じく、就労し続けられる環境を整えることで幸福度が増すことも重要であると思う。シルバー人材センターは国の管轄になるのか、また、どのくらい充実されているのか。シルバー人材センターを社会貢献したい人を呼び込む場と考えれば、コミュニティビジネスとも結節し、そういうコミュニティワークという視点で考えれば、枚方市としてできることがあるのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) (公益社団法人)枚方市シルバー人材センターは、臨時的かつ短期的な就業又は軽易な業務に係る就業を希望する高齢者に対して、これまで培ってきた知識や技能を社会還元できるよう、就業の場を通じた生きがいを支援している。本市は、シルバー人材センターの安定運営などの支援を通じて、高齢者の生きがいの促進に努めている。</p>	第4回 1部会
93 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「産業」	<p>(谷本委員) 現在、市内で事業を行っている事業者に対する操業環境を維持、改善していく視点も必要ではないか。例えば、道路環境や浸水対策なども大切だと思う。</p>	追加 意見
94 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「産業」	<p>(谷本委員) 今後、企業の従業員数が減ったり、倒産や合併によって企業数も減っていくことが予想されている。こうした中、企業数を増やすことも必要だが、今ある企業を減らさないことも重要であり、企業の操業環境を維持・改善していくという視点を盛り込む必要があるのではないか。</p>	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
95 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(橋本委員) 「取り組みの方向」で、「医療分野など本市の特色を生かした産業の創出に向けた取り組みを進めます」とあるが、これに応じた取り組みが書かれていないので、記載すべきである。	追加意見
96	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「新規事業に関心を持ち、創業する人を応援」や「事業者は、競争力向上のため自ら商品開発などに取り組むこと」とあるが、少し書き過ぎのような気がする。	追加意見
97 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(加藤副部長) 地域の活性化に貢献するコミュニティビジネスへの支援が重要だと考える。また、現在、商店街への補助金などの支援は実施しているようだが、商店街の組合に入っていないような個人の小規模店舗（雑貨・カフェなど）にも何らかの対策ができないものか。大阪市内では、路地裏の古い民家をリノベーションした雑貨店、カフェ、ギャラリーなどが増えつつあり、賑わいが生まれている。	追加意見
98 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」	(加藤副部長) 市民との協働がテーマだが、市民が市民を支えるようなコミュニティビジネスの振興は計画に位置づけられているか。大阪市の産業創造館では、コミュニティビジネスと一般的なビジネスは性質が異なるので、起業支援と同じ枠組みの中で振興することは難しいと言われているが、コミュニティビジネスの振興といった視点も必要ではないか。 (新川部長) 地方創生の流れからしても「仕事づくり」には大きな関心が集まっていて、枚方市のように住宅都市は、企業誘致型ではない地域の起業ができるかは大きな論点である。今後、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスを起こしていく時代ではないか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 本市では、本市の地域資源である産業技術、農畜産物、観光資源、人材等を活用した新規性と継続性に優れたユニークな事業に対して補助を行っている。また、地域における公共サービスの新たな担い手であるNPO法人へ支援することを目的として「NPO活動応援基金」を設置し、NPO法人に対して活動補助を行っている。	第4回 1部会
99	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「産業」 「観光・交流」	(加藤副部長) 古い住宅を改装して、雰囲気の良いカフェにしたり、パン屋さんやレストランを開業したりという新しい動きはあるか。 (三輪敦子委員) 本市には五六市というすばらしい手作り市が定期的開催されている。古いまち並み（観光資源）を生かした取り組みで、コミュニティビジネスの一つの形だと考えており、その観点からも捉えることができるのではないかと。また、東海道56番目の宿場町ということから五六市としてやっていることなど、文化的教育の観点からも生かせる資源である。	第4回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
100	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「産業」	(加藤副部長) 北九州市小倉の例で、家賃ゼロでも買い手のつかないような空きビルをリノベーションした結果、現在50人くらいの方が手作りの商品を買っている。空きビルを少し改装することで集客が期待でき、不動産としても賃料が上がるといいう仕組みで、一気に変えるのではなく、少しずつ変えることで賑わいを生む方法である。北九州市がバックアップしているようだが、枚方市でもそういった事例があればバックアップしてはどうか。	第4回 1部会
101	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「産業」	(加藤副部長) 商店街の店舗に空きが出た際、どう業種をコントロールするかというときに、家主と借主だけでは賃料で決まってしまうので、商店街としてはコントロールできない。静岡市呉服町では、空き店舗になる場合にどんな業種に来てほしいかを考える「ランドオーナー(地主)会議」を開催している。行政が支えている部分もあると思うが、主体は商店街の人たちと市民の力だろう。今こそ、そういった取り組みを実行しなければならない。	第4回 1部会
102 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「農業」	(岡田委員) 食農教育や市民農園、地産地消の推進については、農業生産者による提供・発信の取り組みが必要となる一方で、市民の健康意識の向上や生きがいつくり、学校教育などの取り組みが連動しながら進んでいくものだと思う。	追加 意見
103	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「農業」	(橋本委員) 事業者の取り組みとして、食の安全のために成分を正しく公表していくことも大切だと思う。	追加 意見
104 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「農業」	(三輪敦子委員) 「都市農業ひらかた道場」は魅力的で斬新な名前だが、どのような取り組みで、どんな効果があるのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 農業の後継者の育成に向けて、実地研修等を行い、次世代を担う農業者を育成するソフト面の仕組みとして開設したものである。平成26年4月1日に開設、1学年の定員を5名とし、研修期間を2年間として進めている。 (岡田委員) 現在3名の方が勉強されていて、27年度より新たに2名が参加する。2年後、市内で農地を借りて就農すれば国の新規就農に係る助成金などがあるが、月謝が3万円で研修期間は収入がないため、経済的にめどが立つ人でないと難しい。今後どのようになるか注目されている。 (新川部長) 枚方市の農業を支える上でこういった取り組みを続けることは重要である。	第4回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
105 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(伊東委員) 新規就農に向けた「都市農業ひらかた道場」は、市民が気軽に参加するものではないので、空いた時間にボランティア気分で自由参加できるような、道場の一段階手前のものがあつたら良い。収穫物を対価とするなど、楽しみながら農業への関心を高め、裾野を広げる取り組みがあつても良いと思う。 【ご意見に対する回答】(事務局) 枚方市では、「市民ふれあい農園」として、1世帯につき1区画(約20平方メートル)の農地で農作業が体験ができる取り組みを行っている。(年間の入園料金：約7,000円)	第4回 2部会
106 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(三輪信哉委員) 営利的な農業ではない「市民ふれあい農園」が、枚方市内33か所、1,108区画で展開されているとある。ドイツのクラインガルテンなど魅力的だと思っており、もう少し身近なところで有機菜園をすることがもっと広がっていけばいいと考える。	第4回 1部会
107 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(岡田委員) 「市民ふれあい農園」の運営については、農地を守る観点から農協が市から委託を受けて管理している。現在は利用者が自由に耕作しているが、将来的には、種や農業資材、プログラムなどを全て管理者が用意し、一定の作物が収穫できるようにすることを検討している。 あわせて、耕作放棄地が発生しないよう、後継者が育つまで、また「都市農業ひらかた道場」による新規就農者のマッチングという点からも、農協が農業に取り組む事業も検討中である。	第4回 1部会
108 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(加藤副部長) 枚方市内に耕作放棄地はあるか。また、新規就農者の取り組みにおいて、耕作放棄地とのマッチングを図っているとは思いますが、そこを推し進めていくためには何ができるのかを考えていかなければならない。 【ご意見に対する回答】(事務局) 枚方市の耕作放棄地の面積は、33.5haである。(農林業センサスより[平成22年2月1日経営体調査])なお、枚方市の耕地面積は、524haである。(耕面統計より[平成25年7月15日抽出調査]) <参考> 枚方市の面積 6,512ha (65.12km ²)	第4回 1部会
109 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「農業」	(谷本委員) 枚方の農業は後継者など人材不足から存続していくことが厳しい状況にある。既に人材育成に向けた取り組みがなされているが、それを今後どこまで強く打ち出していくべきかだと思ふ。	第4回 2部会
110 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち) 「大学連携」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」で、「事業者は、大学との連携を推進」とあるが、具体性がないように思ふ。	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
111 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「大学連携」	<p>(三輪敦子委員) 「行政の主な取り組み」として、「学生のまちづくり活動への参加の働きかけ」とあるが、具体的なアイデアはあるか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 市民参加のまちづくりワークショップの中で、市内6大学の学生のまちづくりへの参加についての意見が多くあり、それを受けてこの部門に記載している。</p> <p>(宮原委員) 私の住んでいる校区コミュニティでは、校区内の大阪国際大学の学生も校区の夏祭り、定例会などに参加し、自分たちが感じたこと、気づいたことなどを全自治会長、各種団体の前で発表したりもしている。この取り組みは大学のゼミの先生の働きかけがきっかけで、大学生も地域の一員ということで地域が受け入れたことによるものだが、他の校区では大学に呼びかけたがうまくいかなかったという例もある。私の校区が法人格を持っていたこともあって大学と協定を結んで一緒に取り組み、3年間実施したが、その後も続いている。</p> <p>(三輪敦子委員) 成功事例として活用するべきである。</p>	第4回 1部会
112 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「大学連携」	<p>(加藤副部長) 滋賀県立大学では、学生のまちづくりへの参画に係るプロジェクトの費用を大学が支援している。 また、行政がまちづくりの課題を発表して、学生がそれを受けて取り組むことについて制度化しているところもある。そういう取り組みをすれば、枚方は地域の大学とうまく連携しているということを出せるのではないか。</p>	第4回 1部会
113 *	(基本目標：地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち)「大学連携」	<p>(三輪敦子委員) 小学校から私立に通う子どもは、地域とのつながりがまったくないまま成長してしまうことが非常に多い。傾向としては、成績志向が強い方と相関関係があると思われ、非常に懸念している。大学生のときに地域とのつながりを経験するという取り組みはすごく大切ではないかと思う。</p>	第4回 1部会
114 *	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち)「自然環境保全」	<p>(三輪信哉委員) 枚方市の穂谷地区は、枚方市の貴重な財産であり、自然環境の保全に向けて大切にすべきものだと思う。</p>	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
115	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「自然環境保全」	<p>(宮原委員) 東部地域の里山は「にほんの里100選」に選ばれているが、里山のことを知らない市民がほとんどで、観光資源と言えるほどではなく、本当に荒れている状況である。里山を保全して継承していただくだけではとても追いつかないと懸念しており、里山を守るため、強い行政力と市民力が必要ではないか。 終戦後の写真を見ると、ありとあらゆる棚田がきれいに耕作されており、すばらしい風景であった。所有者が豊かになって耕作する必要がなくなった結果、人の手が入らなくなり荒れてきたのではないか。</p> <p>(三輪信哉委員) 自然系、環境系の方々に非常に関心が高い穂谷地区だが、民間の土地なので、住宅開発などで蝕まれていき、絶滅危惧の状態に至っている。「にほんの里100選」に選ばれているのはすごいことなので、もっと強く主張して、里山を保全し、人が集まるよう資源をさらに磨いていくことが重要である。相続税の問題などで切り売りされていくこともあるが、規制をかける取り組みができていない。合意形成を巧に誘導しながら協力を得られることをやってくれたらと思う。</p> <p>(加藤副部長) 里山への市民の認識をどうやって高めていくか、その具体的施策をどう考えていくかが重要である。</p>	第4回 1部会
116	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「自然環境保全」	<p>(加藤副部長) 環境そのものを保全するやり方はいろいろあると思うが、観光、ビジネス、あるいは教育と結び付けて保全するなど、それぞれ関連する部門の中で出てきている。環境部門は横串的な部門であると改めて思う。</p>	第4回 1部会
117 *	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「自然環境保全」「緑の創出」「生活環境」	<p>(吉川部会長) 美しい環境ということ言えば、緑の創出や川の水も重要で、枚方には淀川のほかに穂谷川や天野川などもあるので、水質や川辺の環境についても保全していくべきである。</p>	第4回 2部会
118	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「自然環境保全」	<p>(伊東委員) 宅地開発を制限するなど、緑の割合を保つための法的規制はできないのか。</p> <p>(吉川部会長) 宅地開発を制限したり、緑の割合を保つことなどは法律で決められている。枚方市では景観条例を施行しており、大阪府より厳しい規制となっており、屋外広告物の規制についても協議されている。また、穂谷地区の緑は景観計画でも守っていくことが定められている。</p>	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
119	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「ごみ減量・資源循環」	(宮原委員) 「行政の主な取り組み」に「京田辺市との広域連携による新たなごみ処理施設の整備」とあるが、東部清掃工場以外に新たに建設する予定があるのか。 (三輪信哉委員) ごみ処理施設については、エネルギー回収、高効率のごみ発電などを意識してもいいと思う。 【ご意見に対する回答】(事務局) 本市は昭和63年に穂谷川清掃工場を整備したが、施設の老朽化が進み、後継施設をどうするかが問題になっていた。同じく京田辺市も本市と隣接する甘南備園にごみ処理施設があり、そちらも老朽化が進んでいたことから、今回は京田辺市側に建設し、次回の更新施設は枚方市内に建設する話が進んでいる。 また、平成20年に整備した東部清掃工場は、環境への負荷を最小限に抑える高度な環境性能を備えるとともに、エネルギーや資源を効率的に回収できる設備を備えている。	第4回 1部会
120	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「ごみ減量・資源循環」	(後閑副部長) 進捗状況の資料において、市民意識調査では、「ごみの発生を抑制し、資源を循環させてごみを減らす」に対する重要度は高い水準にあるが、施策指標の「ペットボトル・プラスチック製容器包装収集量」「ごみの資源化率」ともに目標値に追いついていない。市民意識を高めていく具体的な方法を今後考えていく必要があると思う。	第4回 2部会
121 *	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「ごみ減量・資源循環」	(伊東委員) 「左欄の具体的な事業例」の欄に、「小型家電リサイクルの実施」とあるが、ある自治体では、行政が大型ごみを回収し、シルバー人材センターが修理し、それを販売している自治体がある。このようなサイクルにすると、シルバー人材の雇用やごみの削減につながるし、市民も安く製品を手に入れられる。	第4回 2部会
122	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「ごみ減量・資源循環」	(吉川部会長) 自治体によって差があると思うのだが、枚方市のごみの分別は厳しいのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 枚方市の家庭ごみは、「一般ごみ」「空き缶、びん・ガラス類」「ペットボトル・プラスチック容器包装」「粗ごみ」「粗大ごみ」に分別することとなっており、分別に力を入れている都市(参考：水俣市の家庭ごみは24種類の分別)に比べると厳しい方ではないと考えている。(有料は「大型ごみ」)	第4回 2部会
123	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「ごみ減量・資源循環」	(後閑副部長) ごみ袋を有料化すると、小さい袋の方が安いこともあり、ごみ減量に対する意識が向上すると思う。 (谷本委員) 家庭ごみだけでなく、事業者が出す産業系のごみも減量していく方向性を打ち出していくべきではないか。	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
124 *	<p>(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「地球温暖化対策」</p>	<p>(三輪信哉委員) HEMSやBEMSなどトータルでエネルギーを制御して適正管理していくシステムがあるが、市の施設はどうか。今後、新しく建てる場合は、HEMSを導入して省エネタイプの建物にしていくべきである。また、世界全体の共通認識でIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)が出した将来予測を見ると、かなり危機的な状態である。将来、地球人が20億人増加することなので、エネルギー問題など、もっと緊迫した状態が出てくる。環境部門だけが肥大化してもいけないが、総合計画のスパンが長いので、もう少し強く記載してほしい。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 将来、枚方市駅の北側に総合文化施設を整備する予定だが、整備計画の中で環境に配慮した施設をつくること示されている。環境の取り組みについてどこまでやるべきかということもあるが、当然、環境を考慮しながらまちづくりを進めている。なお、枚方市地球温暖化対策実行計画において、新設する公共施設には原則として太陽光発電システムを設置・運用することなどが定められている。</p> <p>(新川部会長) 少なくとも、公共施設には最高レベルの省エネ化を図ることを記載しないと。行政施設だけではなく、民間にも広げていくというような環境管理の考え方を積極的に進めていくと、ごみの問題、地球温暖化、生活環境の問題解決にもつながるかもしれない。</p>	第4回 1部会
125	<p>(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「地球温暖化対策」</p>	<p>(後閑副部会長) 「行政の主な取り組み」の欄に、「太陽光発電など再生可能エネルギーの普及・啓発」とあるが、どのような再生可能エネルギーを積極的に取り入れていくのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 現在又は今後の予定としては、主に太陽光発電を想定している。今後も低炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの視点を持って取り組んでいく。</p> <p>(吉川部会長) 地球温暖化などグローバルな問題に対して、ローカルな活動をしていこうという「Think Globally, Act Locally」という言葉があるが、市の総合計画としては、再生可能エネルギーというより、もっと地に足のついた取り組みを進める方が適しているのではないかと。ローカルでの具体的な行動が、結果として地球温暖化対策につながっていくと思う。</p>	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
126 *	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「まち美化」 「景観」	<p>(小原委員) 「まち美化」、「景観」に係る取り組みに対して「褒める」ということはできないか。何らかの形で「このまちはきれい」とほめていく方法をとれば、もっと関心が出てくるのではないか。</p> <p>(三輪信哉委員) 美しいまちに住みたいという考えは潜在的にあると思われる。人を呼び込む戦略の一つになる。</p> <p>(新川部会長) 「枚方美しいまち100選」のような、まちを表彰する制度があってもいいかもしれない。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本市では、ボランティア活動を通じて社会に貢献している個人及び団体に対して、活動の労をねぎらい、今後の活躍を期待することを目的とした「枚方市ボランティア表彰」を実施している。 <参考：平成26年度実績> 団体の部(6件) 個人の部(35件)</p>	第4回 1部会
127	(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「まち美化」	<p>(宮原委員) 庭木の剪定をシルバー人材センターにお願いした場合、剪定ゴミは持って帰ってもらえないので、ゴミ収集日に何回かに分けて出す手間があり、少々高くても植木屋に頼む方がよかったという話は地域でよく聞く。</p> <p>(加藤副部会長) それでは、庭木を植えなくなってしまうのではないか。美しいまち並みづくりに反するかもしれないが、そのあたりは政策的にやらなければいけない。</p> <p>(新川部会長) 「庭木の緑を守る条例」など、全国的には生垣や庭木に補助をしている自治体もある。</p> <p>(宮原委員) 枚方市は、生垣緑化の整備に対して支援している。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本市では、花と緑のあふれるまちを目指して、平成26年度より、まちなか(基本的に市街化区域内)の花や緑を増やしたり、花や緑を通じて地域交流の場となるような拠点をつくったりするような、市民が主体となる緑化活動(生垣緑化など)にかかる取り組みを支援している。</p>	第4回 1部会
128	(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「まち美化」	<p>(伊東委員) ポイ捨てなどのマナーに関することや美化活動への参加については、親のしつけや周りの大人の姿勢が子どもに影響を与えるように思う。学校だけでなく家庭内でも環境教育をするなど子どもの頃から環境意識を高めるような取り組みが重要だと思う。</p>	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見										
129 *	<p>(基本目標：自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち) 「景観」</p> <p>(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「住環境」</p>	<p>(三輪信哉委員) 空き家率が高くなっていく中で、それを地域資源と見るのか、廃墟と見るのかでは変わってくる。今後、空き家の活用が現実味をおびてくるのではないか。空き家を適正に活用すればコミュニティの活性化などにつなげることも考えられ、その旨をどこかに記載しておく必要があると思われる。</p> <p>(小原委員) 2040年には全国の空き家率が40%を超えられている。防犯面からも課題であり、どこかで対応が必要である。</p> <p>【ご意見に対する回答】 (事務局) 枚方市の空き家率は11.6%で、全国値に近い数字になっている。空き家の活用については、地方版総合戦略でも考えないといけない大きな課題である。なお、空き家に関しては、基本目標「安全で、利便性の高いまち」の「住環境」の部門に記載している。 <参考：空き家率> <table border="1" data-bbox="405 685 703 786"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>枚方市</td> <td>11.8%</td> <td>11.6%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>13.1%</td> <td>13.5%</td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>(新川部会長) 空き家に関しては、安全安心のコミュニティをどうするかという視点、地域経済に活用するという視点、地域の環境維持の視点など多面的に考える必要がある。</p>		H20	H25	枚方市	11.8%	11.6%	全国	13.1%	13.5%	第4回 1部会
	H20	H25										
枚方市	11.8%	11.6%										
全国	13.1%	13.5%										
130	<p>(基本目標：自然と共生し、人々が集い活力がみなぎるまち) 「景観」</p>	<p>(嶋田委員) 景観に関して、空き家の問題がある。草が生い茂っているような空き家もある。今後、ますます増えていくと思うが、有効活用している事例はあるのか。</p> <p>(吉川部会長) 京都の町家などは、リノベーションしてものづくりの拠点としたり、住まいとして活用したりしている。しかし、問題なのは、手入れされていない空き家が景観を損ねたり、倒壊するなどのリスクがある点である。そのため、大阪市内でも空き家の取り壊しなどが行われており、うまく更新していくことが必要になってくる。 枚方市であれば、香里団地なども更新しないとイケない時期にあると思うが、千里や泉北ニュータウンもそういう時期にあり、千里については活発に更新が行われている。そこでは、公団タイプの団地がマンションタイプの高層団地に建て替えられ、昔から住んでいる高齢者や新しく入居してきた若い世代が増え、中間層が少ないという構成になっていると聞いている。美しい環境も守ることに 대해서는、空き家の問題や住居の更新は重要な観点と言えるだろう。</p>	第4回 2部会									

No.	部門	委員によるご意見	
131 *	(行政運営：全般)	<p>(三輪信哉委員) 「行政運営」の分野について、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の欄が「一」になっているが、これはどういうことか。</p> <p>(新川部会長) 行政運営の分野は、市民も主体的にこんなことをやっていけばという内容があれば、提案していけるとよいのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 案の段階においては、行政運営の分野について、みなさんがまちづくりを進めていくにあたり、行政が下支えとしてやっていくことを推進姿勢としてまとめており、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄は基本的には記載しない方向で考えている。ただ、前回、行政運営の項目においても「市政に関心を持つ」という視点も必要ではないかという意見をいただいていることから、「市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進」の部門については「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄の記載について検討する。</p>	第4回 1部会
132	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「情報発信」	<p>(橋本委員) 「行政の主な取り組み」に、シティプロモーションとあるが、わかりやすくするための用語説明が必要だと思う。</p>	追加 意見
133	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「情報発信」	<p>(宮原委員) 枚方市では、個々には充実した事業が行われているが、対象者にその取り組みが見えていないのではないかと。妊娠時、0歳児、未就学児などそれぞれを対象にした事業が行われており、広報などでお知らせはしているものの、一貫した説明になっていないので、対象者(市民)にはその流れが伝わっていない。市民に見える方式ができれば、地域で活動している者にとってもありがたい。</p> <p>(新川部会長) ゆりかごから墓場までなど、それらを情報発信して見える化していくとよい。</p> <p>(三輪信哉委員) 断片的に多くの情報が発信されている中で、新たなくくりで市民にわかりやすく情報発信していくことが重要である。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本市では、健やかな子どもの成長を支援する活動の一環として、枚方市民生委員児童委員協議会等が「ひらかた子育てMAP」を作成し、本市子育て支援室が発行している。また、子育てに関する各種手当や検診・予防接種、急病時の相談窓口から、親子で気軽に遊びに行ける市内の施設、保育所・幼稚園の一覧まで育児に必要な内容が記載された「ひらかた「子育て応援」ナビ」を作成し、市民課の出生届出の窓口で配布している。</p>	第4回 1部会

No.	部門	委員によるご意見															
134 *	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「情報発信」	<p>(加藤副部長)</p> <p>枚方市の広報はどうか。最近、大阪市内の広報紙は斬新なものになってきており、インパクトのある表紙、テーマ型の内容などで構成されている。広報紙を見ている人はどれくらいか。広報紙は市と市民をつなぐ非常に重要な媒体なので、もっと力を入れておもしろくする方がよいのではないかと。特に、30代、40代など、現在見てもらえていない世代に見てもらえるような広報紙にすべき。</p> <p>(小原委員)</p> <p>枚方市では、市政情報を得る手法について、「広報ひらかた」が約90%、「地域の掲示板や回覧板」が約35%となっている。 <参考：枚方市の情報発信に関すること（H26 枚方市の情報発信に関するアンケート調査報告書より）></p> <table border="0"> <tr> <td>○広報ひらかた（89.7%）</td> <td>○テレビ・ラジオ（6.8%）</td> </tr> <tr> <td>○地域の掲示板や回覧板（35.4%）</td> <td>○ケイ・オプティコム（5.5%）</td> </tr> <tr> <td>○日刊紙（24.0%）</td> <td>○その他（4.1%）</td> </tr> <tr> <td>○ひらかた便利帳（18.8%）</td> <td>○FMひらかた（3.2%）</td> </tr> <tr> <td>○チラシ・ロコミ（15.3%）</td> <td>○枚方市公式ツイッター（0.8%）</td> </tr> <tr> <td>○枚方市ホームページ（14.2%）</td> <td>○無回答（0.7%）</td> </tr> <tr> <td>○地域ポータルサイト（7.0%）</td> <td></td> </tr> </table>	○広報ひらかた（89.7%）	○テレビ・ラジオ（6.8%）	○地域の掲示板や回覧板（35.4%）	○ケイ・オプティコム（5.5%）	○日刊紙（24.0%）	○その他（4.1%）	○ひらかた便利帳（18.8%）	○FMひらかた（3.2%）	○チラシ・ロコミ（15.3%）	○枚方市公式ツイッター（0.8%）	○枚方市ホームページ（14.2%）	○無回答（0.7%）	○地域ポータルサイト（7.0%）		第4回 1部会
○広報ひらかた（89.7%）	○テレビ・ラジオ（6.8%）																
○地域の掲示板や回覧板（35.4%）	○ケイ・オプティコム（5.5%）																
○日刊紙（24.0%）	○その他（4.1%）																
○ひらかた便利帳（18.8%）	○FMひらかた（3.2%）																
○チラシ・ロコミ（15.3%）	○枚方市公式ツイッター（0.8%）																
○枚方市ホームページ（14.2%）	○無回答（0.7%）																
○地域ポータルサイト（7.0%）																	
135 *	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「情報発信」	<p>(三輪信哉委員)</p> <p>20代の若者が全部スマホで済ますような時代が遠からずやってきて、広報紙や回覧板が駆逐される時代が20年もすれば来るだろう。そういった世代は、情報のキャッチ能力、有用な情報を選ぶ力も備わってきている。</p> <p>(宮原委員)</p> <p>地域においては、そういった手法に対応できない方もまだまだ多い。</p>	第4回 1部会														
136 *	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「広聴」	<p>(本田委員)</p> <p>子育て世代などは様々な意見を持っていると思うので、市役所に対して気軽に意見できるように広聴機能を充実することが必要である。また、そういった意見から色々なアイデアが生まれるかもしれないし、それを施策に活用することができればよいと思う。</p>	追加 意見														
137	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	<p>(加藤副部長)</p> <p>今回、さらに強く「市民協働」を打ち出していこうとしている中で、今までやってきたことに対して何を強く打ち出していくのかということが必要だと思うが、特に取り組んでいこうとしていることはあるか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局）</p> <p>現在、本市では、安全で魅力あるまちづくりの推進と地域住民の連携の推進のために、各校区コミュニティ協議会に対し、補助金を交付している。</p>	第4回 1部会														
138	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	<p>(加藤副部長)</p> <p>地域での市民の困りごと、例えば「きれいにしたいが自分ではなかなかできない」というときに、シルバー人材センターなどをお願いして安くやってもらえるような仕掛けや仕組みはあるか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局）</p> <p>(公益社団法人) 枚方市シルバー人材センターでは、清掃や除草、水やりなどの軽作業のほか、宅内の掃除、洗濯、買物などのサービスも引き受けており、地域社会に貢献する取り組みを進めている。</p>	第4回 1部会														

No.	部門	委員によるご意見	
139 *	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(加藤副部長) 今後、介護保険を使わない程度のちょっとした困りごと、例えば病院へ行くときの付き添いなどのニーズがますます高まると思うが、そういったことはどこで対応しようとしているか。市民協働で対応する部分もあると思うが。 (宮原委員) 現在は、介護保険を利用して地域包括支援センターをとおしてヘルパーさんにやってもらう場合、民生委員で対応している場合、45の校區別に設置されている校区福祉委員会で対応している場合などがある。校区福祉委員会は年間50万円の活動補助金が出ており、個別援助活動として対応している校区もあるが、校区によってばらつきがある。 互いに支えあうというシステムが自然にできてくればいいが、当事者にならなければ市民の意識は醸成されていない。市民全体でお互いに支えあうまちだという認識が広がっていくことが理想である。	第4回 1部会
140	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(後閑副部長) 進捗状況の資料において、施策指標の「自主的なまちづくり活動を実施した校区コミュニティ協議会数(累計)」「自治会等加入世帯率」は目標よりかなり低水準にあるが、これは自治会等に参加していても困らないという市民が多いということなのか。 (嶋田委員) 地域のことに関心がなく、自分の家が大丈夫ならよく、隣近所の関係も持たないという考えの世帯もあるように思う。	第4回 2部会
141	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(吉川部会長) 枚方市では地域コミュニティが熱心な活動をしていると聞いているが、どうなのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 市内全45小学校区に校区コミュニティ協議会があり、様々なまちづくり活動が行われている。協議会によって活動の差はあると聞いているが、全校区で自主防災組織がつくられるなど、活発に取り組まれている。	第4回 2部会
142	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(嶋田委員) 校区コミュニティ協議会の中で、活動の差があるのはどういう部分か。 【ご意見に対する回答】(事務局) 各校区コミュニティ協議会において必要な取り組みがなされてはいるが、実施レベルには差がある。市民のワークショップでも地域格差について意見が出ており、課題となっている。	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
143	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(嶋田委員) 進捗状況の資料において、施策指標の「自主的なまちづくり活動を実施した校区コミュニティ協議会数(累計)」は、平成25年時点で7つしか事業を実施していないのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 「地域づくりデザイン事業」は、各校区の特色を生かして行う主体的な地域づくりを支援するもので、希望する校区コミュニティ協議会から事業案を市に提案をしてもらい、学識経験者、コミュニティ・NPO関係者などで構成する委員会で審査された結果、認定された事業に対して補助を行うものである。これまで7つの校区コミュニティ協議会が実施している状況である。	第4回 2部会
144	(行政運営：市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進) 「市民活動支援」	(嶋田委員) 施策指標の「自治会等加入世帯率」は近年ずっと横ばいで、なかなか加入率が増えない状況が続いている。これは市民の防災や防犯などに対する意識が低く、地域の街灯のメンテナンスなど身近なところで自治会のお世話になっているという感覚がないことも伺える。自治会に加入するメリットなどを行政が提示していくことで少しは自治会加入率の増加につながるかもしれない。 (伊東委員) 自治会への加入の仕方や、加入すべきかなどについて分からない人もいると思う。例えば、住所変更や転入届の提出などで市役所に訪れた人に対し、自治会の紹介や加入の斡旋を行うなど、行政が加入を後押しする仕組みを取り入れてはどうか。	第4回 2部会
145 *	(行政運営：効率的な市政運営)	(榮野委員) 基本構想で記載した、成長を前提とした拡大型の施策展開の見直しの視点については、「効率的な市政運営」などの項目で、基本計画にも明記すべきだと思う。	追加 意見
146 *	(行政運営：効率的な市政運営)	(谷本委員) 行政運営の「効率的な市政運営」などの項目では、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載はないが、市民などは市の運営に関心を持つことが大切だと思う。	追加 意見
147 *	(行政運営：効率的な市政運営)	(榮野委員) 行政運営の表題で、「効率的な市政運営」とあるが、効率的だけで良いというわけではなく、効果的であることも必要だと思うので、「効率的・効果的な市政運営」とすべきではないか。	第4回 2部会
148 *	(行政運営：効率的な市政運営) 「行政改革」	(榮野委員) 市民がまちづくりに参画していくという視点は書かれているが、行政側から市民と協働していくという視点が薄いように思う。このため、「行政改革」の部門で、行政が市民や事業者とともにまちづくりを進めていくことで、効果的に市政運営を進めていくという内容を盛り込んではどうか。	第4回 2部会

No.	部門	委員によるご意見	
149 *	(行政運営：効率的な市政運営) 「行政改革」 「市有財産管理」	<p>(榮野委員) ICTを活用することで、電子自治体の推進を図り、行政サービスを向上する趣旨は記載されているが、行政運営を効率化し、行政改革を進める視点もあると思うので、記載してはどうか。</p> <p>(吉川部会長) ICTの活用は、広報や広聴の機能はもちろん、効率的・効果的な運営についても役割は大きい。また、市有財産管理についても、効率的・効果的に活用していくという視点は重要だろう。効率性を重視して減らし過ぎても問題であり、必要な分は効果的に活用していかなければならない。</p>	第4回 2部会
150	(行政運営：効率的な市政運営) 「市有財産管理」	<p>(宮原委員) 直接飲用できる水道が1か所のみという中学校があることを聞いたが、どういうことか。なお、施設の老朽化が原因ということであれば、水道施設の内容は「市有財産管理」の部門に該当するののか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 5階以下の低層建築物であっても、古い中学校などは上部の貯水槽から自然流下で給水している。水道水が飲用できないということは、給水管等が古いことに起因している場合もあるし、いろいろな要因が考えられる。直接飲用できるものは、おそらく新設されたもので、直結給水になっているものと考えられる。原因の調査、対応など水道部に早急に対応してもらう必要がある。 なお、部門について、水道に関しては、「生活環境」のところに掲載している。また、学校施設については、老朽化に伴い施設の更新が必要という観点で「市有財産管理」に記載している。</p>	第4回 1部会
151	(行政運営：効率的な市政運営) 「市有財産管理」	<p>(三輪敦子委員) これから統廃合が進むことが想定される小中学校の校舎の有効活用を革新的に一步前へ進めてほしい。妊娠期からの切れ目のない子育て支援と高齢者への支援とをトータルして、生まれる前から高齢者となって生活するときまで、生活の結節点として小学校を位置づけることは有効ではないか。</p> <p>(三輪信哉委員) 小中学校の有効活用に関して、防災拠点、環境拠点など、あらゆる意味で有機的な拠点になり得る。「市有財産管理」の中に、小中学校の有効活用を記載した方がよいのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 学校施設の有効活用については、平成27年4月に策定した「枚方市学校施設整備計画」に基づき、第1期実施計画(前期)期間(平成32年度まで)において、学校施設のあり方について検討する。</p>	第4回 1部会
152 *	(行政運営：効率的な行政運営) 「組織運営」	<p>(加藤副部会長) 複数の部門にまたがるような取り組みをどう示していくか検討しなければならない。また、そういった取り組みを担う行政の組織体制を構築するためには、組織を越えた連携ができる仕組みづくりが必要である。</p>	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
153 *	(行政運営：効率的な市政運営) 「組織運営」	(橋本委員) 部門をまたがる横断的な取り組みが重要となる中で、「組織運営」の部門の具体的な事業例に、「組織横断的な課題への対応を図る総合調整機能の充実」とあるが、その考え方が大きなポイントになると思う。	追加意見
154 *	(行政運営：効率的な市政運営) 「組織運営」 「人材育成」	(三輪敦子委員) これまでにも議論に出ていた横串という考え方が、行政運営においては非常に重要になってくるのではないかと。横串をどう推進していくかが非常に大変な課題で、それに対応できる体制を実現するための必要な取り組みをもっと明確に示すことができればよい。	第4回 1部会
155	(行政運営：効率的な市政運営) 「組織運営」	(加藤副部長) 現在、部局間の連携はどういった形で行われているか。また、総合計画の延長線上で複数の部署が関わる場合、今であれば予算を考える段階から関係部署がより効果的に何をすればよいかを事前にわかるといふことか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 理事が複数の部を担当して連携を図るやり方と、一つの事業やプロジェクトの関係部署の代表者が集まって庁内委員会をつくって検討するやり方の2系統でやっている。なお、実行していく段階でも関係部署が関わってくることは当然あるので、そのあたりは若干課題だと考えている。	第4回 1部会
156	(行政運営：効率的な市政運営) 「組織運営」	(加藤副部長) この中で横串となる柱を立てると、部局間で連携して取り組みやすくなるということか。 (新川部長) その柱を具体的に示すことができれば、それが重点化施策にもつながってくるだろう。	第4回 1部会
157	(行政運営：効率的な市政運営) 「人材育成」	(三輪敦子委員) 計画は生きたものであり、状況が変われば想定していないような連携が必要になってくる。そうすると、計画段階で横串の柱を立てることも大事だが、より重要なのは横串をどれだけ具現化しようとする職員のコミットメントではないかと考える。枚方市の職員全体にそういった意識があると考えてよいのか。 (宮原委員) 地域には地域づくりデザイン制度などがあるが、市職員においても提案型事業制度などがあるとよいのではないかと。 【ご意見に対する回答】(事務局) 職員の政策形成能力や問題発見・解決能力あるいは研究意欲等の向上を図るとともに、職場改善活動や新たな施策につなげ市政の活性化及びその提案の共有化を図るため、これまでから職員提案制度を実施している。	第4回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
158	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 「対応」欄の「具体的な事業例」について、ここは私たちの議論すべき範囲に含まれるのか、それとも実行計画レベルの内容なので、そこまでは求められていないということか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 「具体的な事業例」は、「行政の主な取り組み」をよりイメージしやすくするために記載している。基本的には、「課題」や「取り組みの方向」、また、「行政の主な取り組み」、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄を中心に議論いただきたい。</p>	第3回 1部会
159	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 「具体的な事業例」に関して、実行計画を作成する際にそれぞれ指標や達成目標を設定するのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 基本計画に指標を掲載していくという方向性は持っているが、具体的な指標の表し方については、今後議論を進めていただく必要があると考える。基本計画の期間が12年間と長いスパンになるので、目標値を計画の中に示すのか、その場合、目標値が陳腐化しないかというようなことも含めて、今後、議論いただきたいと考えている。</p> <p>(新川部会長) 基本計画の指標、目標値の設定、計画の進捗管理、評価の手法などについては、今後、審議会の中で議論していくこととなる。</p>	第3回 1部会
160	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 部門について、例えば「安全で、利便性の高いまち」については、「防災」、「生活安全」、「道路環境」、「公共交通」は基本構想の内容と一致しているが、この4項目以外に「災害医療・保健」、「住環境」は基本構想に掲載されていないように思う。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 庁内で検討してきた結果、現時点において、基本構想(基本目標の「○………」欄)に記載されていない部門もある。こういった点も含め、今後、基本構想についても検討いただきたい。</p>	第3回 1部会
161 *	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 同じ内容について、複数の部門に併記することはできないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 現行の基本計画でも、2つの施策にまたがって記載しているものもある。今はわかりやすいように1つの部門に記載している。</p> <p>(加藤副部会長) 例えば、安全安心という保障を受ける、サービスを受ける、つまり、市民の側から記載するのか、あるいは行政の部署が何を担当するかという意味合いで記載するのか、どちらの視点で記載するかは大きな問題である。 部門の枠組みを越えるような内容は併記していくことで、行政の部署を越えて立ち向かっていくという感じになると思う。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
162	部門共通	<p>(徳久委員) 「～をつくります」という表現が多いが、財政的に見た場合、おそらく老朽化した施設に関しては除却等々も含める必要があると思う。また、統廃合の問題も重要で、そういった課題が前面に出ていないというのは、今の時代にあっていない気がする。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 「市有財産管理」の部門に、「公共施設の長寿命化や統廃合など、効果的・効率的な市有財産の活用を図る」という趣旨で記載している。</p>	第3回 1部会
163 *	部門共通	<p>(徳久委員) 特に、基本目標「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」などは、行政は行政、市民は市民というように、縦に割られていて、行政側による市民の活動支援という書かれ方があまりしていない。実際、地域包括ケアシステムを構築していく場合には、当然、地域の活動がコアにならないとまわらない部分がたくさんある。すでに活動している市民団体の活性化及び支援という観点がないと、結局、これまでどおり、行政は啓発活動を頑張っていて、市民は市民でやるという形になってしまうので、できれば、そういった観点を全般的に入れていただきたい。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 市民が中心になった活動を支援していくという考え方が含まれていないので、記載の仕方について全般的に検討する。</p>	第3回 1部会
164 *	部門共通	<p>(徳久委員) この間の議論で、特に市民委員の方から「多世代の交流」が今後のまちづくりにはずごく大切だという意見が出ていたと思うが、あらゆる世代が教育活動をやります、生涯学習をやりますということは記載されているけれども、交流という観点がありません。障害を持った方も高齢者の方も、みんな助け合ってまちをつくっていくということが、とても大事だと思う。</p> <p>(新川部会長) 多世代交流の視点は、健康づくり、福祉、生涯学習、地域交流といった点で有効な方法であり、そういった取り組みを市民をあげて実行していくということは市民の役割でもあると思うので、少し工夫してほしい。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
165	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 施設の目的外使用は、予算等の縛りがあるため明記するのが難しいということはあるのか。例えば、学校を文科省関連以外の高齢者や障害者、あるいは地域密着型の活動で使用することに対してはハードルが高いのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】 (事務局) 学校施設に関しては、以前に比べて、緩和の方向に動いているということもあるので、以前よりハードルは下がっているというのが現状である。</p> <p>(宮原委員) 学校などの目的外使用のハードルは下がっていると思う。コミュニティ室として教室を借りたりしているが、グラウンドや体育館なども以前に比べて使いやすくなっている。</p> <p>(三輪信哉委員) 学校は、地域の防災拠点であり、環境拠点でもあり、いろんな意味で拠点化できる場所である。目的外使用が拡大すれば、さまざまな企画や事業等が展開できる余地があるように思う。</p> <p>(新川部会長) 公共施設の有効活用、目的外使用ということであれば、どこで扱うかは検討がいるが、健康や福祉の部門でも扱えるし、さまざまな可能性があるように思う。</p>	第3回 1部会
166	部門共通	<p>(加藤副部会長) 枚方市の団地の状況はどうなっているのか。高齢化が進行し、空き物件が増えてきたので、若者向けに改修したりすることによって世代間交流を生んでいくということも考えられる。</p> <p>枚方市の場合、大阪市に近いので、空き部屋や空きスペースが発生しても埋まるとは思うが、大阪府の南部では埋まらないところがたくさんあり、深刻な問題と捉え、世代間交流を促進しようとさまざまな取り組みが行われている。枚方でもそうした取り組みを考えれば先進的な取り組みとなるかもしれない。</p> <p>URの物件に市が関わって改修等をするのは難しいが、南部ではそこに手を加えないといけない状況がある。</p> <p>(宮原委員) URであれば、URが自治会を作って自治会活動を行っていると思う。また、枚方市には、小学校区ごとに45の校区コミュニティ協議会と校区福祉委員会があり、校区福祉委員会のプログラムの中には世代間交流ということが大きくうたわれているので、小学校区ごとに校区福祉委員会が予算をもらって世代間交流を促すイベント等を行っている。</p> <p>(三輪敦子委員) URが1960年代に建てた団地、千里ニュータウンを若者向けに改修したというニュースを見た。千里ニュータウンの場合は、URが無印良品と組んで、その製品を使った改修を行っていた。その成果として、実際に若い世代が入居しており、空き部屋が埋まっているということだったので、香里団地や中宮団地等でも使えるのではないかなと思う。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
167	部門共通	<p>(小原委員) 全体的に暗い印象を受ける。癒しという面で、「スポーツ」のほかに、「芸術」などを取り扱っている部門はあるか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 芸術に関わる部門としては、12ページに「文化芸術」の部門がある。基本目標「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」のもと、「文化芸術」であるとか「歴史文化遺産」といったものに関する取り組みを掲載している。</p>	第3回 1部会
168 *	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 全体として「行政の主な取り組み」の表現に差があるように思う。例えば、「人権」と「男女共同」でも書き方が違うが、やはり、「行政の主な取り組み」としては「医療」の部門のところくらい書き込まれていた方がわかりやすいのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 現状はたたき台として提案している段階であるため、表現に差がある部分については、今後、整理する。</p> <p>(新川部会長) 「行政の主な取り組み」の内容について、現状のままでは基本計画として少しバランスが悪いため、検討が必要である。</p>	第3回 1部会
169 *	部門共通	<p>(徳久委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」には、現在すでにやっているような、記載しやすい内容を書いているというイメージが強い。この基本計画は今後の計画なので、今後取り組むべき内容が記載されていないということは問題ではないか。地域の支援活動を行っているNPOや民生委員など、さまざまな事業主体がそれぞれの活動の中でどのように取り組んでいくかという観点で欠けている。</p> <p>また、「行政の主な取り組み」には、虐待問題等の抑止や防止のための啓発に向けた取り組みが挙げられているが、潜在的にすでに被害を受けていて、相談したい人たちの需要もかなりあるように思う。今後、潜在需要を吸い上げるための相談体制や支援体制をもっと構築していく必要があるのではないか。しかし、現状では「行政の主な取り組み」には記載されていないので、今後どういった対応が必要なのかという観点から、「行政の主な取り組み」の内容を強化していった方がよいと思う。</p> <p>(新川部会長) 未来志向で考えていくとき、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の欄は役割分担をしっかりと、相互の連携をしっかりと組んでいくような表現に変えるということも必要かもしれない。あまり具体的に書きすぎると、当事者から困るという声が挙がるという事態も想定できるので、「将来みんながこんなふうにしていただければいいよね」というようなニュアンスを出していただきたい。「行政の主な取り組み」についても同様に、事業例を参考に課題やニーズに合った方向付けをしてもらいたい。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
170 *	部門共通	<p>(本田委員) 全体を通して、「課題」を数字で示せる部分について示してはどうか。例えば、「学校」の部門に「いじめや不登校などの問題が深刻化する中」とあるが、どの程度深刻なのかが伝わればよいと思う。昨年度のいじめの件数や、不登校の人数などを示している方がわかりやすいと思う。現状の数字は掲載できるところが多いと思うので、検討していただきたい。また、文字が多いので、読んでいて把握しにくい。</p> <p>(新川部会長) パーセンテージや人数がいいのか、あるいはグラフがいいのか、どのような示し方にするのかは検討が必要である。 基本計画の最終版では、どんな「課題」があり、その「課題」に対してどのような「取り組みの方向」があり、「行政の主な取り組み」「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」は何なのかというものを示していくことを想定している。そのとき、こういった形で現状把握として「課題」を書き込んでいくかについては検討が必要である。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 確かにそのような記載になっている自治体もあるが、本市の現行の総合計画は定性的な書き方をしており、これをベースにたたき台を作成した。 基本的に、数字で示せるものと示せないものがあるので、最終版を作り上げていく段階では、写真を挿入したり、表やグラフを入れたりデザインしていくので、理解しやすいという観点で工夫していきたいと考えている。</p>	第3回 1部会
171	部門共通	<p>(加藤副部会長) 行政がミニマムな公共サービスを担うという視点で書かれているので暗いイメージになってしまうが、楽しいところは市民が担っていくというような役割分担を想定するのであれば、それを打ち出せるかどうかという議論があってもいいように思う。</p>	第3回 1部会
172 *	部門共通	<p>(新川部会長) 「課題」や「取り組みの方向」の書き方で読んだときに感じる印象は変わってくるのではないかと。全体として、落ちてしまったサービスを最低限度まで引き上げないといけないということがあれば、それから先は市民の側の協力に置き換えるということももちろんあるだろうし、少しでも良い状態をさらに高めていくというところに目を向ければ行政としてやっていくこともある。行政の役割はどこまでなのかという議論もあり、今後、それを基本計画の中で整理しながら、積極的に書き分けていきたい。</p>	第3回 1部会
173	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 行政は、市民の半歩前を歩いて引っ張るとともに、市民の半歩後ろから後押しする役割があるように思う。行政は情報を集積しているプロ集団。他市の事例を集めてくるのは行政の能力であり、それらのノウハウを市民に還元し、市民に寄り添いながら市民を育てていく、社会を成熟させていくという自覚を行政は持ち合わせておくべきだろう。</p>	第3回 1部会
174 *	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 行政計画は、課題ありきでその課題をいかに解決していくかに目が行きがち。しかし、そこに着目しすぎると、全体として問題が強調され、暗い印象を与えてしまう恐れがあるので、強みにも着目しながら計画を作っていくべきか。</p>	第3回 1部会

No.	部門	委員によるご意見	
175 *	部門共通	(新川部会長) 「健康」「高齢者福祉」にせよ、「生涯学習」にせよ、全体的に前向きな書き方に変更していくことを検討いただきたい。現状、問題点の洗い出しを起点に計画を策定しているが、良い状態をさらに伸ばしていくというような考え方もいいのではないか。	第3回 1部会
176 *	部門共通	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、誰がするのかという主体が不明確な箇所がある。主体を明確化した方がわかりやすいと思う。	第3回 2部会
177	部門共通	(谷本委員) 各部門間には様々な関連性があるので、難しいかもしれないが、他部門との関連を資料で示すことができればわかりやすいと思う。	第3回 2部会
178 *	部門共通	(橋本委員) 例えば、「子育て」、「学校教育」の部門では、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の欄は多くのことが書かれ過ぎており、カテゴリ一別に分類してきれいに並べるなど、読みやすいデザインにする工夫が必要だと思う。	第3回 2部会
179	部門共通	(橋本委員) 「左欄の具体的な事業例」の欄だけ書体が違うが、これには意味があるのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) この欄の内容については、「基本計画」ではなく、「実行計画」に挙げるような事務事業の内容を記載しているので、書体を分けているものである。	第3回 2部会
180 *	部門共通	(北川委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載内容は、全体的に各主体が義務のように受けてしまう感じがする。例えば、「期待する主な取り組み」などにすれば、受け入れやすいのではないか。	追加 意見
181	部門共通	(小原委員) 最初から「防災」の部門など暗いイメージを出すのではなく、芸術やスポーツなど、癒しの部門を前に出していく方がよいと思う。	追加 意見
182 *	部門共通	(角野委員) この計画の実現主体を「市民等」とするのであれば、市民等が計画の方向性を理解できるよう、各分野の「取り組みの方向」の内容をもう少し具体的に記載した方がよい。また、市民参加という視点で考えると、市民一人ひとりの主体性が発揮できるような内容に整理してもらいたい。 あわせて、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載内容のバランスが悪いので、こちらを整理する必要がある。	追加 意見

No.	部門	委員によるご意見	
183	部門共通	(高井委員) 様々な社会問題がある中で、安心して暮らせるまちをつくるためには、環境が良い地域や悪い地域といった格差を生みださないようにすべきである。	追加意見
184	部門共通	(本田委員) 読み手に興味を持ってもらうためには、総合計画の冊子の導入部分に特徴を持たせたり、各ページの情報を直感的にわかりやすくするなどの工夫が必要だと考える。例えば、各部門の課題の根拠となる数字を示す方法として、インフォグラフィック（データをイラストやグラフを使って視覚的に表現したもの）などの手法を取り入れてみてはどうか。	追加意見
185	部門共通	(後閑副部長) 現状を示すため、グラフなどにより数値を記載する際には、実態を正確に示すものはいいが、いじめや虐待など潜在的な件数があるものは注意が必要だと思う。	追加意見
186 *	部門共通	(嶋田委員) 「市民」が一番大きな地域資源であり、今後、市民がまちづくりに参加していくことが重要だと思うが、現状では参加するための仕組みができていないように思う。特に中学生になると、学業や部活動のように結果の対価がないので、インセンティブを与えるような仕組みを整えることが必要ではないか。 また、地域の関係が希薄化している中で、同じ世代同士だけでなく、世代を超えた人たちが集える場所を設けることが重要な意味を持つと思うので、関係を築くきっかけの1つとして、地域のお祭りなどが果たす役割は大きいと思う。	第4回 2部会
187	「指標」について	(本田委員) 指標について、基本計画の期間が12年間と長いため、目標値を示すのは難しいかもしれないが、実行計画において4年ごとの目標値を設定して進行管理することも一つの方法かもしれない。	追加意見
188	全般	(三輪信哉委員) 聞き慣れない専門用語については注釈が必要である。 【ご意見に対する回答】（事務局） 編集のときに注釈を掲載する。	第4回 1部会
189 *	全般	(三輪信哉委員) 横の連携を推進すべきと積極的に考える文化を、市民、市の職員や事業所が持てるかどうか肝である。それさえあれば対処できるのではないか。 これから想定できない問題がどんどん起こってくるときに、今までどおりのやり方は効かなくなるため、すぐに集まって話をして、そこで具体的に対処していくような柔軟性を一番高いレベルで打ち立てて、枚方市はこれからの諸課題に対して、横串で連携しながら対処していかなければ乗り越えられないということを書き込むべきではないか。 (新川部長) 一方で、連携、協働を枚方市のすべてにわたっての基本的な風土、文化にしていかなければいけない。それをつくっていくためには、職員が他の部門との連携を密に、市民との連携をしっかりと考えて、市民は行政や事業者、あるいは他の市民との連携をどうしていくかということを出せるといいかもしれない。	第4回 1部会